

元.5.31 佐倉市 教育センターだより Vol.48

令和元年5月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0_6.html

礼を尽くす心～職員間の信頼関係の構築を～



佐倉市教育センター所長 榎 本 泰 之

何年か前の話になりますが、卒業生が出場する夏の高校野球の試合を観に行った時のことです。車を降りて球場に向かう途中で、偶然試合を待つその卒業生と会いました。簡単に挨拶を交わし、「頑張って」と声をかけて立ち去ろうとすると、「先生少し待っていてください。」と引き止められました。しばらくして、卒業生はスタンドにいた母親をわざわざ連れてきて、さらには監督にまで私を紹介するという出来事がありました。試合は1点を先行されたものの、見事逆転をし、3対2で勝利しました。試合後は会うこともなく、帰宅して自宅でくつろいでいると、「今日はありがとうございました。次の試合も頑張ります！」との卒業生から電話がありました。試合前のその卒業生の行動と試合後の電話に、随分成長したなあと思ったのと同時に、とても嬉しかったのを今でも覚えています。相手に感謝の気持ちを表すこと、「礼を尽くす心」の大切さをその卒業生から学んだ瞬間でもありました。「礼を尽くす心」は相手に対する尊敬と愛情の表れであり、お互いの信頼関係が深まることにつながります。そして、それは義務ではなく、自分自身の心の中から自然と表れてくるものだと思います。新年度が始まってからこれまで、先生方は心に余裕がない程忙しい日々が続いていることでしょう。そんな忙しさの中でも、相手に対する心遣いを大切にし、お互いに礼を尽くして職場の仲間と接することで、職員間の信頼関係が自然な形で築かれていくのではないでしょうか。そのような信頼関係こそが子供たちの成長に大きな影響を与えるのだと私は思っています。

さて、新年度がスタートして、2か月が過ぎようとしています。年度始めは環境が変わることから、やる気に満ち、希望に胸を膨らませてスタートを切る子供たちも多いと思います。その一方で、新しい環境に馴染めず、欠席が多くなり、登校渋りが始まる子供たちが出てくることもあります。10連休後の子供たちの様子もとても気になるところです。何事も大切なのは「早期発見・早期対応」です。少しでも気になる子供がいたら、迅速に対応し、不登校の未然防止に努めてください。そして、各学校で「報告・連絡・相談」を密にし、担任だけでなく、学校全体で連携を図りながら組織的に取り組むことが大切だと思います。それが、子供たち一人一人を大切にし、子供たち一人一人に常に寄り添った温かい指導に繋がるのではないかでしょうか。職員間の信頼関係をしっかりと構築しながら、子供たちの心の変化を敏感に察知し、心温まる指導を今後も継続していただくようお願いいたします。

今年度も教育センターでは、7つの事業「学力向上推進事業」「教育相談事業」「特別支援教育推進事業」「道徳教育推進事業」「学校図書館活性化事業」「インクルーシブ教育システム推進事業」「教育センター普及振興事業」を中心に、センター機能の充実を図り、各学校の教育活動のニーズに合った支援を右記のように行っています。

教育センター事業

学力向上推進事業

- ・佐倉市学習状況調査
- ・好学チャレンジプリント作成
- ・全国学力・学習状況調査
- ・教育課題調査研究

教育相談事業

- ・適応指導教室の運営
- ・教育電話相談室の運営
- ・心の教育相談員配置
- ・教育相談基礎講座

特別支援教育推進事業

- ・就学指導・就学相談
- ・特別支援教育関連
- ・特別支援教育支援員配置

道徳教育推進事業

- ・佐倉学道徳副読本「佐倉の道徳」活用推進
- ・佐倉学道徳教材の作成
- ・佐倉学検定の推進

学校図書館活性化事業

- ・学校図書館担当者会議及び研修会
- ・学校図書館司書派遣

インクルーシブ教育システム推進事業

- ・発達相談
- ・言語通級指導教室の運営

教育センター普及振興事業

- ・センターだよりの発行
- ・センター等報告会の開催

各事業に関することで相談がありましたら、気軽に教育センターまでご連絡ください。教育センターは様々な面で学校や先生方をサポートしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。



平成30年度 佐倉市学習状況調査 ~確かな学力を~

平成30年度佐倉市学習状況調査について、基礎基本（A問題）に関する問題の正答率から考察した手立てをまとめました。また、児童・生徒・教諭等の学習意識に関する調査を「主体的・対話的で深い学び」の視点を小学校、中学校別にまとめました。

ここでは、調査結果の一部を掲載していますので、詳細は報告書をご覧ください。

基礎基本（A問題）の結果から見られる考察と手立て

国語A

考察

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学3年	弱い	96.7 %	親切	65.5 %
小学4年	終わる	92.1 %	短い	57.6 %
中学1年	幼虫	80.3 %	至急	54.6 %
中学2年	自己	95.2 %	衛生	65.5 %

同音異義語の誤答が見られた。比較的、日常目にすることが多い漢字の正答率が高い。正答率が低い漢字はどの学年も毎年正答率が低いので、確実に定着させたい。

手立て

- 揭示物等を活用して日常的に目にふれるようにし、視覚化して定着させる。
- 漢字のミニテストやドリル学習、家庭学習等の充実を図り、確実に定着させる。

算数・数学A

考察

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学4年	$76 \div 6$	90.9 %	$420 \div 4$	67.8 %
小学5年	$1/3 + 2/5$	90.6 %	$1 \cdot 1/3 - 5/6$	61.2 %
中学1年	$6x \times (-7)$	86.3 %	$(8x + 5) - (4x + 3)$	46.5 %
中学2年	$-8a \times 5b$	95.4 %	$30ab \div (-5b) \times (-2a)$	53.5 %

帯分数のきまりについて定着が十分でない。特に負の数が入っている計算問題で正答率が低い。ここ数年課題となっている。

手立て

- 好学チャレンジプリント等を活用し、ドリルタイムや家庭学習等で短時間で繰り返し取り組むことにより、基礎基本の確実な定着を図る。
- 基礎基本となる計算の仕方やきまりについては、途中式を書きながら丁寧に処理させることを繰り返し指導することで定着を図る。

理科

考察

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学3年	昆虫の体のつくり	90.2 %	昆虫の育ち方	43.0 %
小学6年	植物の成長と水の関わり (蒸散の違い)	97.5 %	排出に関わる臓器	57.1 %
中学3年	運動とエネルギー 斜面の運動に関して、速さを理解	91.4 %	気象のしくみと天気の変化 (前線面の様子)	41.5 %

小学校は全体的に正答率が低くなっている。中学校では、過去3年を見ると全体的に正答率が上がり良好な傾向である。

手立て

- 名称とはたらきや用語を適切に扱うことが大切である。
- 視覚的に捉えにくい内容をイメージ図やモデル図等を用いて視覚的に捉えさせる工夫が必要である。

英語

考察

学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
中学1年	疑問文の語順	be動詞の否定文
中学2年	be動詞+going+to～を含む文	接続詞whenを含む複文

小学校の外国語活動で学習している表現は、概ね正答率が高く、理解が図られている。
リスニングは高い正答率であり良好である。

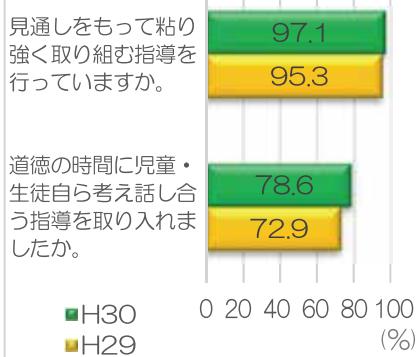
手立て

- 「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を計画的に取り入れたバランスの良い学習計画を立てる必要がある。
- 問題演習を意図的に取り入れ、英文を書くことに慣れさせる。

児童・生徒・教諭等の学習意識に関する調査～「主体的・対話的で深い学び」の視点から～

小学校

「主体的・対話的で深い学び」の視点について[教諭・講師等]



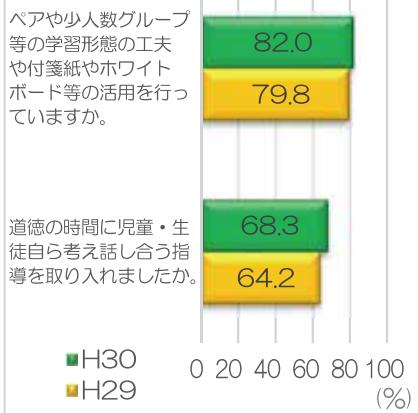
「友達と話し合うとき最後まで友達の意見を聞いている」についての意識調査結果[児童]



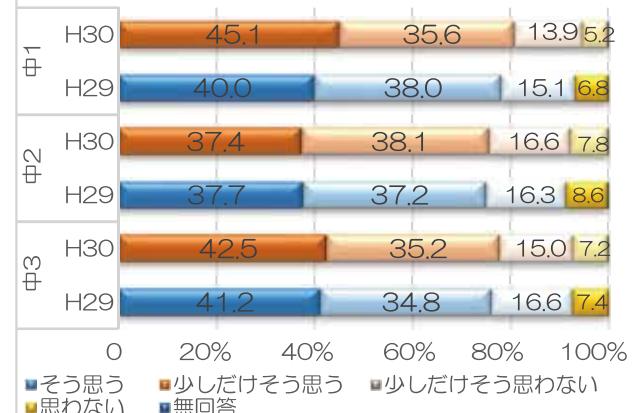
教諭・児童ともに昨年度と比較すると肯定的な回答の割合が高くなっている。このことから主体的な学びを意識した指導が行われていることがわかる。児童も最後まで友達の意見を聞いていることから、「話は最後まで聞く」ことを意識して、話し合いを行っていることがうかがえる。

中学校

「主体的・対話的で深い学び」の視点について[教諭・講師等]



「ペアやグループで話し合ったり学習したりするのが好きだ」についての意識調査結果[生徒]



教諭の肯定的な回答の割合が高くなっていることから、学習形態を工夫して授業を行っていることがわかる。このことが、生徒の肯定的な回答につながっていると思われる。ペアやグループの活動により、生徒が主体的に学習に取り組んでいることがうかがえる。

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が求められています。この3つの視点は、対話的な学びが深い学びにつながり、深い学びが主体的な学びにつながる等、3つの視点が一体となることで、質の高い学びが実現されます。しかし、授業改善の視点としては、3つの視点を一体的に考えるのではなく、それぞれの視点から授業を捉えるようにします。そして単元や題材のまとまりの中で、子どもたちの学びが3つの視点を満たしているかを、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら、学びの状況を把握し改善していくことが大切です。

特別支援教育へのサポート～適切な支援による着実な成長を～



発達相談

担当の学校教育相談員：山辺浩子・谷上千秋・中村恵利子
学校支援コーディネーター：野老優子・岩崎由理子

学校（園）生活や家庭生活でうまくいかないことが多い、勉強についていけなくなっている、発音や聞こえに心配があるなど、困難さが見られる幼児・児童・生徒、その保護者を対象に相談事業を行っています。

必要に応じて保護者の承諾のもと、諸検査等を実施して、より詳しく実態把握を行い、結果に基づく適切な支援について担任の先生とも連携を図り、楽しい学校生活につなげていきます。

就学相談

担当の指導主事：稻葉光政・深澤朱美

保護者や学校からの就学に関する相談に応じます。学校・関係機関等と連携しながら、その子どもにとって一番望ましい就学の方法や、適切な教育支援の内容と一緒に考えていきます。

各相談の実施日時・場所・連絡先

- 相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）
午前10時30分～午後5時00分
- 場 所 佐倉市将門町7（佐倉市立佐倉東小学校内）
- 電 話 486-2400



佐倉市の教育相談事業 ~自分のできることを少しづつ…~



適応指導教室

何らかの理由で学校生活に不適応な状態になっている児童生徒に対して、学習や小集団生活の場を提供しています。教室には、学校教育相談員7名を配置しています。

相談員や子どもたち同士の交流を通して、自己肯定感を高めるとともに、一人一人が安心して生活し、少しずつ学校復帰や希望する進路へ向かうことができるよう支援していきます。また、保護者・学校・適応指導教室が一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めています。

○開設日：月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）午前10時～午後3時

志津教室

佐倉市西志津4-1-2
(西志津ふれあいセンター2階)
電話 489-1002

小集団による活動を行っています。
コミュニケーション能力の育成や
学習支援を行っています。
※志津教室は複合施設内にあるため、第2・4月曜
日がお休みとなります。



佐倉教室

佐倉市栄町8番地7
(佐倉市ヤングプラザ2階)
電話 484-6611

個別対応を中心に学習支援を行っています。
小集団の活動も行っています。



教育電話相談室

「教育電話相談室」では、市民、保護者、児童生徒など様々な方からの相談を受け付けています。経験豊富な相談員が丁寧に対応し、アドバイスをします。より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口の紹介もしています。

心の教育相談員

小学校8校に心の教育相談員を配置し、児童・保護者の悩みや不安に関する相談を受け付けています。友達関係や学校に関すること、生活の中での悩みも遠慮なく相談できるような関係作りを心がけています。また、子供の様子を捉え、さりげなく声をかける等の支援も行っています。